

「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ」

シンポジウム

開催の目的

2011年3月11日発生 of 東日本大震災は、私たちの想像をはるかに超え、一般市民が撮影した生々しい大津波の映像は瞬時に世界を駆け巡った。

そこに写った津波の瞬間、そして津波が去った悲劇の後には、将来必ず起こるといわれる南海、東南海地震に備えなければならない私たち高知県の未来そのもの。まさしく今回の震災は明日のわが身である。

であるなら私たち高知県民は、今回の震災そしてそこから復興に向かう東日本の人々や地域から、多くのことを学ばなければならないと思う。それがわずかでも犠牲者に報いることにも通じるのではないだろうか。

今回のシンポジウムでは、被災後の産業復興や、コミュニティ、自治体のあり方など、必ず震災に直面する高知県民としての心構えとそのため of 不断の地域づくりをどのようにすすめたらいいのかを考えたい。

**入場
無料**

開催日 2012年2月4日（土）13:00-17:00

開催会場 高知文化ホール

高知市本町3丁目2-15 Tel) 088-825-4321

対象者 地方自治体職員他一般県民（どなたでも）

テーマ 「震災時震災直後はどうだったのか、そこから今まで」



渡邊美恵子 さん

震災当日釜石市内で被災し逃げ延び、更にこれまで数十日に渡り震災後の東北地域の産業復興の現場に足を運び、その実態をつぶさに見てきた明星大学 関満博教授から震災時の状況から、現在までの復興の状況をお聞きします。

更に、震災後すぐに気仙沼の自治体支援に入った黒潮町役場 友永氏からは被災直後の市役所職員の様子や被災地の状況から何を感じたのか、報告を受けます。また、宮城県岩沼市震災復興会議委員 渡邊氏からは実際に被災された住民の立場から、当時の状況やどのような視点で復興計画策定にとりくまれているか、報告していただきます。



関満博 さん



友永公生 さん

主催 社団法人高知県自治研究センター

TEL 088-822-6460